

I 第14週の発生動向 (2010/4/5~2010/4/11)

1. インフルエンザについては、県全体で大幅に減少しています。迅速診断キットによる型別は、弘前保健所管内：B型：2人、むつ保健所管内A型：1人でした。
2. 伝染性紅斑については、上十三保健所管内において第3週から**警報**が継続しています。
3. 流行性耳下腺炎については、五所川原保健所管内において**注意報**が発令されました。

II 第14週五類感染症定点把握 注：五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

青森県内の定点(医療機関)数については青森県感染症発生動向調査TOPページをご覧ください。

疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		数	人/定点	数	人/定点
小児科 +内科 (85) インフルエンザ			2	0.1							1	0.2	3	0.0	0				
小児科 (74) RSウイルス感染症	5	0.6	2	0.2	4	0.4	2	0.4	8	1.3	1	0.3	22	0.5	12			5	0.6
(75) 咽頭結膜熱			5	0.6							5	1.3	10	0.2	1				
(76) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	14	1.6	5	0.6	3	0.3	1	0.2	9	1.5	6	1.5	38	0.9	-5			14	1.8
(77) 伝染性胃腸炎	60	6.7	47	5.2	23	2.6	8	1.6	59	9.8	38	9.5	235	5.6	30	9	9.0	51	6.4
(78) 水痘	11	1.2	13	1.4	5	0.6	2	0.4	11	1.8			42	1.0	-27			11	1.4
(79) 手足口病											1	0.3	1	0.0	1				
(80) 伝染性紅斑	6	0.7							8	1.3	4	1.0	18	0.4	-6			6	0.8
(81) 突発性発しん	10	1.1	5	0.6	3	0.3			5	0.8	4	1.0	27	0.6	12	2	2.0	8	1.0
(82) 百日咳															0				
(83) ヘルパンギーナ			1	0.1									1	0.0	-2				
(84) 流行性耳下腺炎	10	1.1	2	0.2	3	0.3	20	4.0	6	1.0			41	1.0	13			10	1.3
眼科 (86) 急性出血性結膜炎															0				
(87) 流行性角結膜炎	1	0.5					2	2.0					3	0.3	-3			1	0.5
基幹 (92) クラミジア肺炎															0				
(93) 細菌性髄膜炎															0				
(95) マイコプラズマ肺炎					7	7.0					1	1.0	8	1.3	3				
(96) 無菌性髄膜炎															0				

■ は警報、■ は注意報。「空欄」：患者発生無し。

III 表II以外の感染症法対象疾患

(注：届出状況は速報値です)

(73) 麻しん(五類全数把握疾患)：八戸1人(修飾麻しん)

(22年計：2人)

IV 病原体検出情報

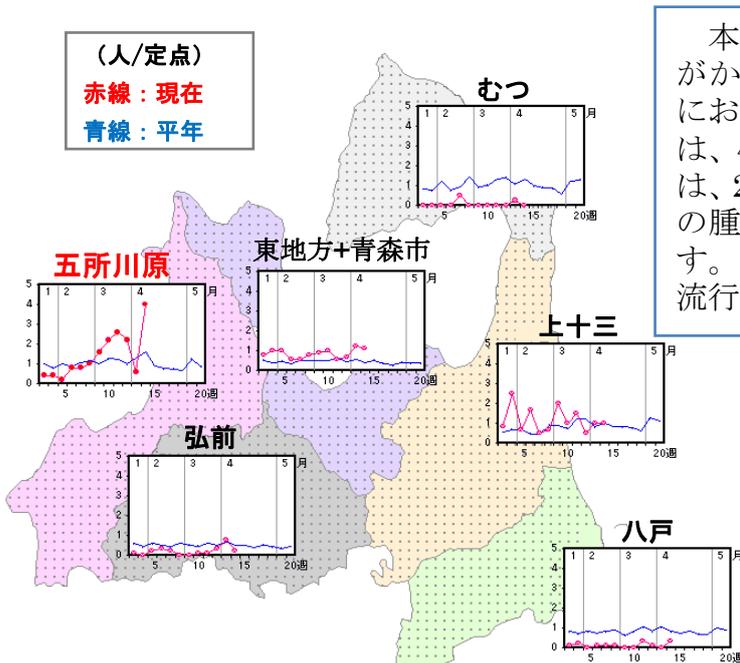
・病原体情報はありませんでした。

☞過去の全数把握疾患については、月報をご覧ください。

感染症の窓

流行性耳下腺炎

(五類定点把握)



本疾患の原因病原体はムンプスウイルスで、感染力がかなり強い感染症です。現在、五所川原保健所管内において、急増(先週3人→今週20人)し、年齢別では、4~6歳が50%以上を占めています(図1,2)。症状は、2~3週間の潜伏期間の後、耳下腺を主とする唾液腺の腫脹、圧痛、嚥下痛、発熱を主症状として発症します。感染は接触または飛沫により伝播することから、流行地域では注意が必要です。

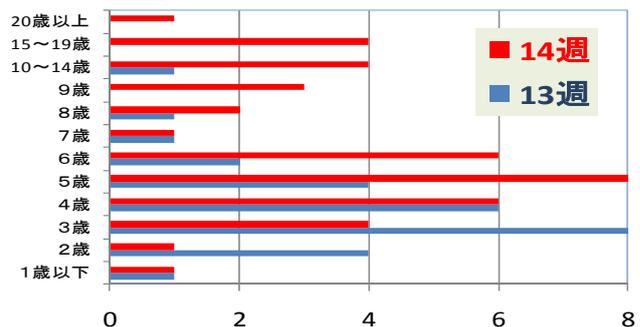


図1 保健所管内別届出数(青森県)

図2 年齢別届出数 (青森県13週-14週)